

第14回高知県立病院経営健全化推進委員会議事要旨

- 1 日時 令和2年1月16日(木) 18:30~20:30
- 2 場所 高知共済会館 3階 桜
- 3 出席者 委員 : 宇田委員長、臼井委員、奥谷委員、執印委員、
野並委員、廣光委員、藤原委員
公営企業局 : 北村局長、笹岡次長
県立病院課 : 猪野課長、松本企画監、岡崎課長補佐
あき総合病院 : 前田院長、坂本経営事業部長、平瀬看護部長
幡多けんみん病院 : 矢部院長、伊藤経営事業部長、横山看護部長
- 4 議事 以下のとおり

(1) 平成30年度及び令和元年度の経営状況について

県立病院課、あき総合病院、幡多けんみん病院から資料1、資料1-2、資料1-3等により説明した後、意見交換を行った。

[意見交換]

(委員)

- ・あき総合病院の委託費が高い原因については調べたのか。

(あき総合病院)

- ・競合する業者や、本当に必要なもの(内容)であるか等を検討するにあたり、事前の情報収集をもっとやっておけば、より安くできたと思われるケースがある。今後、費用の見直しについては、コンサルタントの導入も検討する。

(委員)

- ・病床利用率や診療単価等の経営状況は(大学医局の)若手医師にも厳しく教えている。幡多けんみん病院の同医師においても、病院の状況等、厳しく教えていただいかまわない。

(幡多けんみん病院)

- ・各医師にヒアリングしたときには、特に抵抗感なく聞いていただいた。

(委員)

- ・t-P A(脳梗塞の血栓溶解薬)を使える施設の要件が、制度改定等で緩和されている。あき総合病院では脳卒中センターを設置するとの説明だったが、幡多けんみん病院では、どのように対応しているのか。

(幡多けんみん病院)

- ・あき総合病院と同じような体制を整えており、これまでも対応してきた。現在、4人の脳

神経外科の常勤医師がおり、24 時間体制で対応できるようにしている。

(委員)

- ・精神病棟を持つ病院が介護医療院に転換した事例が出てきている。このようなケースは公立では考えにくいと思われるが、今後、精神科は重要な議論になってくると思う。

(委員)

- ・診療報酬の算定に関しては、医師任せではなく、事務職員等がチェックしていく仕組みを作っていく必要があると思う。また、経営状況について、あき総合病院の繰入金が増えている理由と地域包括ケア病棟を運営する上での課題等について教えてほしい。

(公営企業局長)

- ・繰入金は国から示された基準により、医療で不採算といわれる部分に充てられているが、あき総合病院では、主に一般病棟と精神病棟との診療単価の差が広がったことが、繰入金増加の要因として考えられる。

(あき総合病院)

- ・当院では、患者さんが入院後、急性期病棟において治療をメインに行い、地域包括ケア病棟に転棟後、リハビリの実施も含め、地域のケアマネジャーや他職種の職員とともに、退院後の生活等の調整を行うという良い流れができています。医療資源の少ない安芸地域において、地域包括ケア病棟のような病棟は必要。現在、同病棟（45 床）の病床利用率は 90% 程度。

(委員)

- ・幡多けんみん病院と幡多地域の病院については、十分に連携できていると思う。ただ、地域の病院から、幡多けんみん病院に転院した患者さんの転院後の経過が分からないという声の一部であった。各診療科の医師にその点を呼びかけていただいたら、もっと幡多地域での（幡多けんみん病院の）印象は良くなると思う。

(幡多けんみん病院)

- ・各診療科の医師にはよく指示しておく。

(委員)

- ・平成 30 年度決算の人件費の増加要因については、主に医師の時間外単価の増や退職者の増との説明があったが、人件費の今後の見通しについて教えてほしい。

(公営企業局長)

- ・人件費については、今年度はまだ抑え込めると思っているが、今後の診療報酬改定や医療制度改革等による影響が見通せないこともあり、厳しい状況が続くと思われる。来年度には、同一労働同一賃金の考え方にに基づき、会計年度任用職員制度が導入され、同職員への期末手当の支給等で 4,000 万円程度の増加が見込まれている。

(委員)

- ・両病院の急性期病棟における看護必要度について、スタッフへの指導はどのように行っているのか。

(あき総合病院)

- ・基本的な考え方は全員に周知しており、実施・記録漏れ等のチェックについては、副看護長を始め、定期的に行っている。

(幡多けんみん病院)

- ・研修については、副看護長等、リーダーとなる看護師が院内指導を実施するとともに、看護師全員が（eラーニングによる）テストを受けている。また、院内で組織した看護必要度委員会による量的・質的な監査を年2回実施している。

(2) 第6期経営健全化計画の取組状況について

あき総合病院、幡多けんみん病院及び県立病院課から資料2により説明した後、意見交換を行った。

[意見交換]

(委員)

- ・南海トラフ地震対策については、高齢の住民の避難所や福祉避難所の課題等も視野に入れた住民参加型の訓練実施も検討するべきだと思う。